

# 回想法・一劇・4月号

2011年3月28日発行  
発行 龍ヶ崎市回想法センター  
龍ヶ崎市平台5-9-7  
電話・FAX 0297-65-4443  
e-mail pia-kaiso@etude.ocn.ne.jp  
h p www16.ocn.ne.jp/~piakaiso

## 如何でしたか？

頑張ろう！頑張ろうね 一緒に

東日本大震災の影響が、その後の日本列島を大きく揺るがしております。あってあたりまえの暮らしが、瞬時に、困った暮らしになってしまうことが物語っています。40年前、福島原発は、電力不足を補うために作られました。今その福島原発で、電気が届かないために深刻な状況が続いています。「天罰」この言葉、個人的には納得できません。あって当たり前と、贅沢になった日本人、人間関係が薄れた現代に、神様が、まだ遅くない、しっかりしなさいと気付かせてくれたような気がしています。一緒に回想法を学ばせて頂いております広島文化学園大(旧呉大)看護学部の皆さんが支援活動を続けてくれています。広島から届いた救援物資は、事情を抱え避難所にも行かず、ライフラインが滞りがちな自宅で、支援物資も届かない中で暮らしている被災地の皆様に届けられるように準備を進めています。

### 国境を越えた支援活動

趣味を通して知り合ったスリランカの方が、地震の後すぐに、僕たちにできる事をしたい、何処で、どんな事ができるのか教えてくださいと連絡を受けました。彼らは、仲間に呼びかけ、仕事の合間を縫って、飯岡(千葉県)の避難所にカレー300人分を届けてくれました。避難所では、何故、国に帰らないのか？と聞かれたそうですが、どんな時でも僕たちを支えてくれた日本の方が困っているのに、助けないで帰ることはできませんと

彼らは口を揃えたように言います。

そこで思い出されるのは、日本が戦争に負け、世界中から戦争責任を問われ賠償を求められた



時、ただ一人、スリランカの代表が「憎しみは憎しみを持って解決しない。愛のみが解決する。よってスリランカは賠償を求めない」と。その後、この言葉に賛同し、賠償を放棄する国が増え日本は救われたという話が思い出されます。私たちが忘れがちな温かな心を、彼らに教えられたような気がしています。心をつなぐのには、国境は要りませんよね。楽しい時、悲しい時、辛い時、どんな時も、心をつなぐに寄り添うことの大切さを、この大震災が教えてくれた様な気がしてなりません。(3月25日・朝日新聞千葉県版に掲載された記事を紹介します)

自分にできる支援活動を続けてゆきましょう！

### 回想ガイド活動

資料館が震災の影響で閉館中です。4月のガイド活動は、資料館が開館するまで、今しばらくお待ちください